

「マスクなし」が陽性者の約 85%、「福井モデル」でマスク徹底

厚労省アドバイザリーボードで紹介、感染防止と経済再生の両立を目指す

021 年 5 月 26 日 (水)配信橋本佳子(m3.com 編集長)

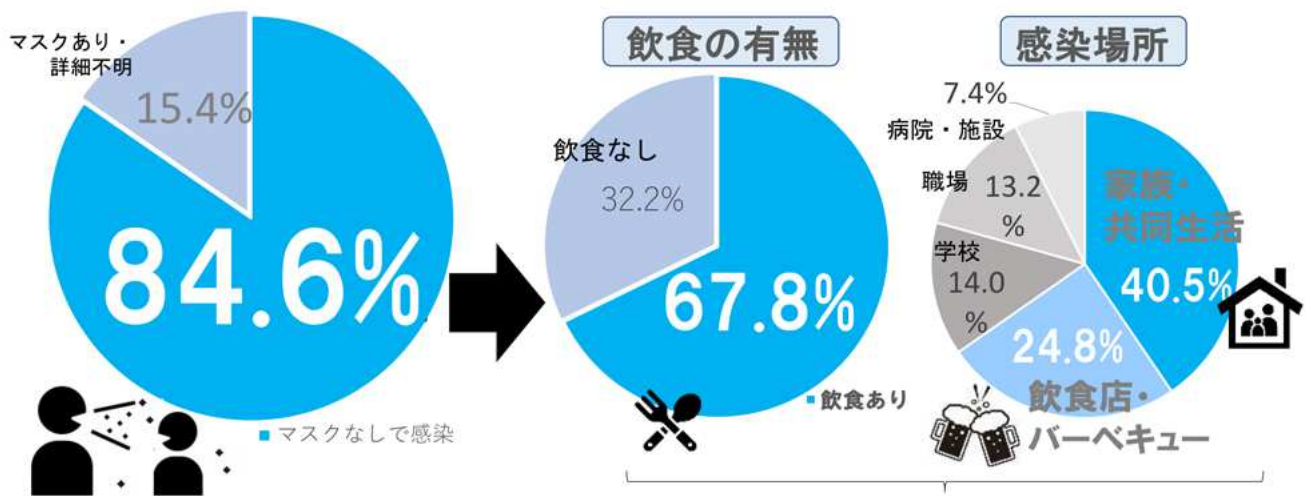
[厚生労働省の新型コロナウイルス感染症](#)対策アドバイザリーボード(座長:脇田隆宇・国立感染症研究所所長)の 5 月 26 日の第 36 回会合で、「おはなしは**マスク**」とのキャッチコピーで、マスク着用徹底に取り組む「福井モデル」が紹介された。[COVID-19](#) 陽性者の約 85%が「マスクなし」の会話と関係するというエビデンスを基に、「マスク会食推進店」を指定、同店で利用可能な食事券を配布し、感染防止と経済再生の両立を目指している。

広島県でも、独自の積極的疫学調査 J-SPEED データを用いた分析で、一定の場面で「**マスク**着用あり」の場合は、「マスク着用なし」と比較して陽性率が減少するエビデンスが得られている(資料は、[厚労省のホームページ](#))。

非公開会合後の会見で、脇田座長は「一部地域でマスクの効果に関する分析がなされているが、このような結果も踏まえれば、会食時を含め会話の際に**マスク**の着用を徹底することは重要。引き続き、職場や学校を含め、日常生活の様々な場面で、マスクの正しい着用等基本的な**感染予防**対策を行うことの重要性を発信することが必要」と説明。一方で、こうした発信が、「マスクさえすれば大丈夫」というメッセージとなる懸念もあることから、「遵守の徹底が難しいことにも留意が必要」と釘を刺し、手洗いや 3 密回避、換気などの対策の重要性も強調した。

把握したエビデンス

約85%がマスクなしの会話



※ 4 月の陽性者 286 名のうち

マスクなし感染の内訳 (242 名、4 月)

これまでの飲食店向け取組み

- 令和2年 7月 「感染防止徹底宣言」ステッカー導入（自己認証）
- 10月 感染対策助成金を支給
・ アクリル板、消毒液等 助成率4/5 上限10万円
- 11月 飲食店の現地確認（～2月）
・ 業界団体と連携して現地確認（2895店（県内全4000店））
- 令和3年 4月 ステッカー登録店を「マスク会食推進店」に指定
・ 「おはなしはマスク」ポスター掲示、マスク配布
- 5月 Go To イート福井お食事券販売再開
・ 「マスク会食推進店」で利用可能
・ 事業者・利用者双方からの相談・通報窓口設置
- 6月（予定）飲食店を現地確認
・ マスク会食含む感染対策を確認（最大4000店）
・ 認証を取れない場合は、Go To イート対象外に
・ 認証店舗に対し、奨励金10万円支給

（2021年5月26日厚労省[新型コロナウイルス感染症](#)対策アドバイザリーボード資料）

福井県では、徹底した積極的疫学調査を行い、濃厚接触者に加えて、接触可能性がある人にも幅広く[PCR検査](#)を実施。その結果、2021年4月の[COVID-19](#)陽性者のうち84.6%が「[マスクなし](#)」で感染していた。「マスクなし」感染の内訳は、「飲食あり」が67.8%で、マスクを外し、飲食をする場面の感染リスクが高いことが改めて明らかになった。

この結果を踏まえ、2020年7月から開始した「感染防止徹底宣言」ステッカー登録店を、この4月から「[マスク会食推進店](#)」に指定、「おはなしはマスク」の広報も開始。5月からは同店でのみ利用可能な「Go To イート福井お食事券」の販売を再開した。6月には飲食店を現地確認し、認証を取れない場合には同食事券利用の対象外とし、認証店舗には奨励金10万円を支給する予定だ。

広島データは、2020年2月から5月にかけて県内で実施された積極的疫学調査J-SPEED データ(n=1434)に基づく。さまざまな場面で[マスク](#)の有無で感染リスク低減効果を調べている。



マスク着用有無と陽性率

	N	陽性者	陽性率
接触時マスク着用 あり	515	31	6.0%
接触時マスク着用 なし	393	63	16.0%

- 着用ありは着用なしと比較して陽性率63%減

$p < 0.001$

(予防策) マスクを着用する

* データはマスクの効果のみが評価されたものではない

(2021年5月26日厚労省[新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード](#)資料)